

《担当者名》薄井 明 usui@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

人間の社会生活の中で圧倒的な比重を占める「言語活動」に焦点を当て、社会学や社会言語学その他の知見を援用して、ミクロおよびマクロの局面から、その構造・メカニズム・機能を考察してゆく。

【学修目標】

言語生活の重層構造および人間生活における言語の多様な働きを理解し、言語活動に対する分析的なセンスを身につける。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	導入	人間生活における言語の多様な働きについて事例をもとに予備的に考察する。	薄井
2	会話の構造(1)	「会話分析」の手法を紹介し、「発話番交替システム」とその変則現象(重なり、割り込み、さまざまな「間」)について考察する。	薄井
3	会話の構造(2)	「隣接ペア」とその拡張形(前置きシークエンス、挿入シークエンス、脇道シークエンス)および「分離標識」について考察する。	薄井
4	会話の構造(3)	「語り」の会話分析を分析例をもとに解説し、「語る権利」「前置き」の問題を考察する。	薄井
5	社会関係と言語(1)	社会関係と言葉づかいの問題を、狭義の「敬語」と広義の「敬語」、言葉づかいの4つの次元から考察する。	薄井
6	社会関係と言語(2)	「とか」「みたいな」「じゃあないですかあ」などの若者言葉にみる対人関係意識を考察する。	薄井
7	言語と社会集団(1)	話し言葉の「階級表示」機能を『マイ・フェア・レディ』を素材に考察し、言語の変種(「社会方言」「地域方言」など)の中に位置づける。	薄井
8	言語と社会集団(2)	言葉づかいの性差(「女言葉/男言葉」と年齢階級集団(「幼児語/若者語/おじさん語/老人語」など)について考察する。	薄井
9	言語と社会集団(3)	集団形成と「隠語」の関係を考察し、隠語の形成法や隠語としての専門用語についても考える。	薄井
10	言語と認知・感情(1)	サピア・ウォーフ仮説を紹介し、言語が人間の認知にどのような影響を与えているかを考察する。	薄井
11	言語と認知・感情(2)	語彙の貧困化が認知・感情の貧困化につながるのかを、感情語彙の変遷(「ハラがたつ」「アタマにくる」「むかつく」「キレル」)や少年犯罪の事例をもとに考察する。	薄井
12	言語と認知・感情(3)	言葉の言い換えによってリアリティ・イメージがどのように変容していくかを考察する。	薄井
13	変化する言語(1)	「正用」と「誤用」が歴史的に相対的なものであることを「海藻サラダ/海草サラダ」「ら抜き」「全然OK」などの事例を通して考察する。	薄井
14	変化する言語(2)	引き続き「正用」と「誤用」の歴史的相対性を「午後のおはよう」「音位転換(metathesis)」などの事例を通して考察する。	薄井
15	総括	言語生活の重層構造について総括する。	薄井

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

中間課題10% + 期末のレポート90%

**【教科書】**

特に使用しない。必要な資料は配布する。

**【参考書】**

適宜紹介する。

**【学修の準備】**

授業内容に関する小課題を授業前あるいは授業後に、複数回、課すので、該当する授業内容を復習すること。

期末に一定分量のレポートを課すので、自分がレポートで書こうと思っているテーマにかかわる情報・記事・本などを、それぞれの段階で収集しておくこと。

**【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

DP3,4